

“大切な花”を咲かせよう

保育所等訪問支援通信NO. 31-1



子どもの発達支援施設
つつじが崎学園



桜がきれいに咲き誇る中、新年度がスタートしました。平成最後の月となり、5月からは令和となります。新しい時代の幕開けとなる記念の年に先生方と一緒に仕事が出来ることを嬉しく思います。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。今年度の通信のテーマは“「気になる子」と言わない保育”です。訪問支援員が訪問した際に保育現場の先生方からよくお伺いする子どもの気になることを挙げ、一緒に考えていきたいと思ひます。“個”や“障害”ばかりを重視せず、集団の中で出来る支援、幼児期の保育現場だからこそ出来る支援を今一度考えるきっかけになるといいなと願っております。

話を聞かなければならない場面でよくしゃべる

朝の会や活動の説明等、お話を聞く場面でいつも自分の言いたいことばかりをしゃべってしまう。先生が注意すると少し静かになりますが、再びしゃべり始めてしまう…毎日その繰り返し。

?



我慢できないのかな？
場の雰囲気がかかっていないのかな？

よくあいそな対応

- 「おやくそく表」をつくる
「おやくそく」という明確なルールを作ることで今何をすべきかに気付くことが出来る。
- 毎日決まった時間に1対1で話を聞く
ルールを守らせる時と子どもの話を聞く時のメリハリを付ける。全体の場面では個人的な話はせず、「ご飯食べたら話そうね」と言って、今は話すべきではないことを伝える。
- 話す人だけマイクを使う
マイクを使うと話す人が誰であるかが明確になる。子どもはいつ話して良いのかが分かるので我慢する行動にも繋がる。



対応の気になるどころ

- 「ルールを守ろう」という子どもの気持ちが大事。
「ルールを守ろう」という気持ちがなければ「おやくそく表」は保育者の押し付けになってしまう。
- 個別対応が必要な時もあるが、現実的に考えて毎回丁寧に話を聞くことは難しい。何より、「困った時は1対1」ではその子どもはもちろん、他の子どもにとっても、お互いのことを考え、思いやうていく姿は引き出せない。
- マイクを持っていない時間は我慢をする時間になってしまうので、相手の話を聞くまでに至らない。話している人に耳を傾け関心を向けられるように、「どんな話をしているのかな？」と声を掛けられると良い。

視点を変えるとこんな実践も…

- ◎楽しみがあると我慢できる
子どもたちを集めるときは保育者が一方的に「集まりまーす」と働きかけるのではなく、「今からお散歩どこに行くか相談するから集まろうね」等と子ども達が「集まることの意味」が理解出来るように働きかけることが大切。子どもは楽しいことが分かる我慢することが出来る。
- ◎共感が安心を生む
「そうなんだね。面白いね。でも今はお散歩どこへ行くか決めてるから終わったら聞くね」と子どもの話に共感してから、話を聞けるように促す。子どもの発した言葉に頷いたり、目を合わせると、子どもはその場所に安心を感じる。そのことで、その後の保育者や友達の言葉を聞く力が強くなる。環境設定としても共感的に声をかけられる距離に座れるよう、その子どもが座ったところに集まったり、大好きな友達が近くにいることで気持ちが落ち着いたり、お互いを理解し合うチャンスになる。

「気になる子」と言わない保育 こんなときどうする？考え方と手立て 赤木和重 岡村由紀子 編著



吉岡かよ



大柴知子



田切美紀

児童発達支援センター つつじが崎学園
地域支援事業部 保育所等訪問支援
〒400-0013

山梨県甲府市岩窪町614番地
Tel 055-251-7678
Fax 055-251-7679
Mail ooshiba@tutuij.or.jp

担当：吉岡かよ 大柴知子 田切美紀